



全日本選手権ロードレース 男子エリート佐野のフィニッシュ



第83回 全日本自転車競技選手権大会 ロードレース	2
第18回全日本選手権個人タイムトライアルロードレース	4
2014日本パラサイクリング選手権・ロード大会	5
第27回全日本マウンテンバイク選手権大会	6
第31回 全日本BMX選手権大会	8
第17回ツアー・オブ・ジャパン	9
ジャパントラックカップ	10
日本代表選手団	12
競技大会結果	14
加盟団体事務局住所変更/評議員変更について	15
連盟の動き	15
第34回アジア自転車競技選手権大会	16
第21回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会	16
日本新記録	28



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。 RINGRING! プロジェクト 競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。くわしくはウェブで RINGRING! (後期)

第83回 全日本自転車競技選手権大会 ロードレース



6月28・29日、2年ぶりに全日本選手権ロードレースが岩手県八幡平で開催され、男子エリートでは次回開催地・那須プラゼンの佐野、女子エリートではヨーロッパで活躍中の萩原が優勝した。また、アンダー23では鹿屋体育大学の徳田鍛造・優兄弟が劇的な1・2フィニッシュを飾った。



女子エリート優勝の萩原



U23、1・2フィニッシュの徳田兄弟



男子U17 + U15のスタート



男子エリート、別府を含む後続集団



女子エリートの先頭集団



男子ジュニアの先頭集団



女子ジュニア、逃げる梶原



男子エリートのスタート

【競技結果】

第83回全日本自転車競技選手権大会ロードレース
(2014/6/28-29 岩手・八幡平)

男子U17 (221.2km)

- 1 佐野 淳哉 栃木 那須ブルーゼン 5:41:49
- 2 井上 和郎 福井 BSアンカー 5:41:59
- 3 山本 元喜 奈良 ViniFantini 5:42:04



- 4 清水 都貴 JPCA BSアンカー 5:42:34
- 5 土井 雪広 山形 チーム右京 5:42:51
- 6 入部正太郎 奈良 シノレーシング 5:42:51

女子U17 (126.4km)

- 1 萩原麻由子 群馬 WiggleHonda 3:52:02
- 2 與那嶺恵里 茨城 サカバンクFX 3:52:15
- 3 合田祐美子 岡山 早稲田大 3:54:36



- 4 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 3:54:37
- 5 崎本 智子 愛媛 カガワAS 3:54:41
- 6 米田 和美 北海道 Ready Go J 3:54:45

男子U23 (173.8km)

- 1 徳田 鍛造 鹿児島 鹿屋体育大 4:38:11
- 2 徳田 優 京都 鹿屋体育大 4:38:11
- 3 秋田 拓磨 福井 朝日大 4:39:46



- 4 広瀬 樹 神奈川 中央大 4:39:49
- 5 鈴木 龍 東京 SEKIYA 4:40:03
- 6 石橋 学 青森 鹿屋体育大 4:40:11

男子ジュニア (126.4km)

- 1 松本 祐典 京都 明治大 3:29:09
- 2 水谷 翔 鹿児島 南大隅高 3:29:17
- 3 雷尾 大地 鹿児島 南大隅高 3:29:21



- 4 小山 貴大 群馬 前橋育英高 3:29:49
- 5 中村 圭佑 東京 昭和一学 3:29:57
- 6 石上 優大 神奈川 横浜高 3:30:11

男子U17 + U15 (79.0km)

- 1 沢田桂太郎 宮城 東北高校 2:16:18
- 2 吉岡 衛 奈良 奈良北高 2:16:18
- 3 日野 竜嘉 愛媛 松山聖陵高 2:16:19



- 4 中川 涼 埼玉 浦和工高 2:16:19
- 5 渡辺 歩 福島 学法石川高 2:16:19
- 6 大町 健斗 広島 サイクルプラス 2:16:26

女子ジュニア + U17 (63.2km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 1:57:33
- 2 大谷 杏奈 愛知 桜丘高 2:02:26
- 3 細谷 夢葉 埼玉 浦和工高 2:02:27



- 4 内村 舞織 鹿児島 南大隅高 2:02:28
- 5 佐々木美郁 宮城 古川工高 2:02:29
- 6 谷 伊央里 群馬 日本体育大 2:02:30

第 18 回全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース大会



エリートは 男子別府、女子萩原が勝利!



男子エリートの別府



女子エリートの萩原



男子ジュニアの山本



男子U17+U15の沢田



男子U23の石橋



女子ジュニアの梶原

【競技結果】

第 18 回全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース大会 (2014/6/27 岩手・八幡平)

6月27日岩手県八幡平で、第18回全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース大会が、全日本ロードと初めて同時に開催され、男子エリートでは別府、女子エリートでは萩原が選手権を獲得した。

個人TT (男子U17+U15) 40.2km

- 1 別府 史之 JPCA TREK 53:01.82
- 2 佐野 淳哉 栃木 那須グランゼゾン 53:31.22
- 3 山本 元喜 奈良 ViniFantini55:11.72



- 4 阿部 嵩之 北海道 フリッツェン 55:35.91
- 5 岡 篤志 茨城 EQA U23 56:34.33
- 6 大場政登志 茨城 C Project 56:36.45

個人TT (女子U17+U15) 26.8km

- 1 萩原麻由子 群馬 WiggleHonda 39:04.66
- 2 與那嶺恵里 茨城 サカバノク FX 39:55.53
- 3 上野みなみ 青森 鹿屋体育大41:57.43



- 4 金子 広美 三重 ケーメ信濃 42:22.30
- 5 米田 和美 北海道 ReadyGoJ 42:57.91
- 6 小島 蓉子 千葉 日本体育大43:02:21

個人TT (男子U23) 13.4km

- 1 石橋 学 青森 鹿屋体育大17:57.17
- 2 倉林 巧和 群馬 日本体育大18:08.56
- 3 小林 泰正 群馬 日本体育大18:16.13



- 4 徳田 鍛造 鹿児島 鹿屋体育大18:16.19
- 5 樋口 峻明 神奈川 京都産業大18:19.10
- 6 浦 佑樹 東京 東京大 18:23.54

個人TT (男子ジュニア) 13.4km

- 1 山本 大喜 奈良 鹿屋体育大 18:06.70
- 2 草場 啓吾 京都 北桑田高 18:12.62
- 3 安田 開 京都 北桑田高 18:31.03



- 4 橋詰 丈 東京 昭和第一 18:57.37
- 5 孫崎 大樹 京都 北桑田高 19:03.48
- 6 安川 義道 奈良 榛生昇陽 19:03.83

個人TT (男子U17+U15) 13.4km

- 1 沢田桂太郎 宮城 東北高校 18:54.70
- 2 大町 健斗 広島 サイクルプラス 19:20.11
- 3 渡辺 慶太 埼玉 浦和工高 19:44.26



- 4 渡辺 歩 福島 学法石川 19:51.30
- 5 日野 竜嘉 愛媛 松山聖陵 20:05.79
- 6 三宅 大春 京都 北桑田高 20:25.02

個人TT (女子ジュニア+U17) 13.4km

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 20:28.95
- 2 坂口 聖香 兵庫 日本体大 20:46.41
- 3 坂口 楓華 兵庫 パナソニックL 22:00.35



- 4 細谷 夢菜 埼玉 浦和工高 22:01.05
- 5 大谷 杏奈 愛知 桜丘高 22:11.97
- 6 内村 舞織 鹿児島 南大隅高 22:16.66

2014 日本パラサイクリング選手権・ロード大会

八幡平で全日本ロードと併催



6月27日岩手県八幡平の岩手山パノラマラインコースで、2014日本パラサイクリング選手権・ロード大会が、全日本選手権ロードレースと初めて同時・同会場で開催された。全日本選手権ロードレースの周回コース15.8kmの一部を往復する13.4kmコースで5クラス、片道6.7kmコースで2クラスが行われ、それぞれのクラスで2014年チャンピオンが決定した。

藤田 征樹



佐藤 圭一



鹿沼 由理恵／沼部 早紀子



花岡 伸和



石井 雅史



小川 睦彦



【競技結果】

2014 日本パラサイクリング選手権・ロード大会
(2014/6/27 岩手・八幡平)

FB (13.4km)

1 鹿沼由理恵／沼部早紀子 20:28.37

MB (13.4km)

1 大城 竜之／林 遼 18:53.42

MT (13.4km)

1 小川 睦彦 東京 JPCF 29:08.99

MH (13.4km)

1 花岡 伸和 千葉 ブーマジック 25:39.68

FC2 (6.7km)

1 藤井 美穂 東京 JPCF 14:54.35

MC2 (6.7km)

1 田中 哲也 青森 JPCF 10:33.31

MC3・4・5 (13.4km)

1 藤田 征樹 茨城 日立建機 18:19.60

2 佐藤 圭一 愛知 エイペックス G 19:52.78

3 石井 雅史 東京 イー・マイト 20:25.55

4 黒澤 力 千葉 JPCF 21:00.20

5 石河 毅也 東京 JPCF 23:37.87

黒澤 力



石河 毅也



藤井 美穂



田中 哲也



第 27 回全日本マウンテンバイク選手権大会

DHI 女子エリート 末政 15 連覇!



Elite Men 安達



Elite Women 末政



Masters 植田



Junior Men 加藤



Youth Men 泉野

7月19日・20日、静岡の日本サイクルスポーツセンターにおいて、第27回全日本マウンテンバイク選手権大会が開催された。

19日にはダウンヒルが行われたが、大雨と雷の影響で一時中断となった。

その後、男女エリート決勝が再開されたが、コースは最悪の状態となり、ほとんどの選手が落車するという混としたレース展開になってしまった。

女子エリートは、落車し苦戦するなか末政が見事15連覇を達成した。また男子エリートは、予選15位の安達が優勝した。

【競技結果】

第27回全日本マウンテンバイク選手権大会 DHI (2014/7/19 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

Elite Men

- 1 安達 靖 愛知 Dirtfreak 2:28.834
- 2 永田 隼也 神奈川 AKI Fact. 2:29.725
- 3 九島 勇氣 神奈川 玄武 2:29.734

Elite Women

- 1 末政 実緒 兵庫 Dirtfreak 2:52.651
- 2 九島あかね 神奈川 玄武 3:02.343
- 3 中川 綾子 兵庫 YRS 3:22.573

Junior Men

- 1 加藤 将来 愛知 Love Bikes 2:08.548
- 2 金子 匠 東京 Yellow 2:12.469
- 3 大本 佳宜 千葉 柏日体高 2:23.406

Youth Men

- 1 泉野 龍雅 愛知 豊橋桜丘 2:06.942
- 2 宇津孝太郎 神奈川 カメリアコック 2:10.866
- 3 井岡 佑介 愛知 YKD 2:10.886

Masters Men

- 1 植田 篤 神奈川 RingoRoad 2:11.751
- 2 大野 良平 岐阜 ホットビ°シャツ 2:13.473
- 3 岡野 将之 東京 Nakazawa 2:15.067

Elite Men 武井 Elite Women 與那嶺



翌20日は天候も回復し、クロスカントリーが開催された。コースは昨年大会から多少変更され、5kmサーキットに入らないコースとなった。

男子エリートでは武井が昨年の覇者山本を抑え優勝、女子エリートでは與那嶺が2連覇を果たした。

また、男子アンダー23では沢田がジュニア時代からの連勝を伸ばした。

【競技結果】

第27回全日本マウンテンバイク選手権大会 XCO
(2014/7/20 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

Elite Men

- 1 武井 亨介 茨城 フォルツァ! 1:23:15.78
- 2 山本 幸平 北海道 Specialized1:23:32.87
- 3 斉藤 亮 長野 BS アンカー 1:24:09.04

Elite Women

- 1 與那嶺恵理 茨城 サクパノク 1:33:44.68
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:35:14.36
- 3 末政 実緒 兵庫 Unior 1:35:51.11

U23 Men

- 1 沢田 時 滋賀 BS アンカー 1:19:01.60
- 2 中原 義貴 大阪 Cannondale 1:19:47.32
- 3 前田 公平 東京 SCOTT 1:22:02.37

Junior Men

- 1 平林 安里 長野 Westberg 1:08:23.58
- 2 山田 将輝 長野 Limited846 1:09:21.08
- 3 竹内 遼 長野 Westberg 1:10:04.84

Youth Men

- 1 北林 力 長野 Westberg 43:13.50
- 2 黒瀬 文也 北海道 TeamBG8 43:44.71
- 3 穴田 玖舟 北海道 TeamBG8 45:13.64

Masters Men

- 1 蜂須賀智也 愛知 CitBucyo 1:12:03.57
- 2 北島 篤志 東京 ckirin 1:12:28.61
- 3 山根 一貴 静岡 カガクジム 1:12:36.67

Junior Women

- 1 中島 峻歩 山梨 SY-Nak 49:53.45
- 2 寺田 有希 愛知 ReadyGoJ 51:20.49

Youth Women

- 1 佐藤 寿美 北海道 TeamBG8 50:37.87
- 2 山田 夕貴 北海道 TeamBG8 1:00:32.71
- 3 松本 璃奈 長野 Mashun 1:08:23.46



U23のスタート、201が優勝の沢田



Junior Women 中島



Youth Women 佐藤



Masters Men 蜂須賀



Youth Men 北林



Junior Men 平林

第 31 回 全日本 BMX 選手権大会

男子エリート 長迫吉拓が 4 連覇!



7月6日に国営ひたち海浜公園 BMX コースで第 31 回全日本 BMX 選手権大会のレース競技が行われ、男子エリートでは長迫吉拓(モトクロスインターナショナル)が優勝し 4 連覇を達成した。

また、女子エリート&ジュニアでは瀬古遥加(Groovy Factory Team)、男子ジュニアでは佐伯辰哉(Vendetta Racing Japan)が全日本選手権のタイトルをそれぞれ獲得した。



長迫吉拓



瀬古遥加



佐伯辰哉

【競技結果】

第 31 回 全日本 BMX 選手権大会
(2014/7/5-6 茨城・国営ひたち海浜公園)

Men Elite

- 1 長迫 吉拓 岡山 モトクロスインターナショナル 130
- 2 松下 翼 神奈川 早稲田大学院 108
- 3 吉村樹希敢 大阪 TOYO CREDIT 100



Men Junior

- 1 佐伯 辰哉 広島 Vendetta Racing 100
- 2 池上 悠斗 大阪 Ringo Road 80
- 3 長谷川湧斗 茨城 70

Women Elite & Junior

- 1 瀬古 遥加 三重 Groovy Factory 100
- 2 山野本悠里 広島 Vendetta Racing 80
- 3 朝比奈綾香 大阪 70

Men Elite Time Trial

- 1 長迫 吉拓 岡山 モトクロス Int. 33.552
- 2 松下 翼 神奈川 早稲田大学院 33.608
- 3 吉村樹希敢 大阪 Toyo Credit 34.142

Men Junior Time Trial

- 1 佐伯 辰哉 広島 Vendetta R. 35.538
- 2 池上 悠斗 大阪 Ringo Road 36.622
- 3 橋本 蓮 茨城 39.274

Women Elite & Junior Time Trial

- 1 瀬古 遥加 三重 Groovy Fact.40.069
- 2 朝比奈綾香 大阪 40.270
- 3 山野本悠里 広島 Vendetta R. 42.160

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING!
プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで **RING!RING!** 検索

TJ TOUR OF JAPAN '14



今年で17回目を数えるツアー・オブ・ジャパンが、5月18日～25日、堺から東京までの6ステージ581.95kmで競われた。

今年のツール・ド・ランカウイの覇者ポルセイエディゴラコル(タブリーズ)が富士山ステージで区間優勝し、17秒差の総合2位に浮上。次の伊豆ステージでリーダージャージを奪取、

そのまま総合優勝を手にした。また、タブリーズが圧倒的な強さでチーム総合優勝も獲得した。



【競技結果】

第17回ツアー・オブ・ジャパン(2014/5/18-25)
堺・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京

個人総合順位

1	ミルサ・ポルセイエディゴラコル TPT	15:05:01
2	グレガ・ホーレ VFN	15:06:52
3	ガートル・ミズバニイナガ TPT	15:08:49
4	ホセ・ウイセンテ・トリビオ UKO	15:09:16
5	トマルハ BGT	15:10:14
6	ヒュー・カーシー RCJ	15:10:49

チーム総合

1	タブリーズ・ペトロミカル チーム	45:24:59
2	チーム右京	45:44:24
3	ラファ・コントロール JLT	45:46:07

ポイント賞

1	グレガ・ホーレ VFN	64p
2	ニコロ・ホニファジオ LAM	51p
3	ジャック・ベッキンセル ART	41p

山岳賞

1	ヒュー・カーシー RCJ	32p
2	ミルサ・ポルセイエディゴラコル TPT	27p
3	アイラン・フェルナンデス MTR	15p

第1ステージ(堺ステージ)

1	ウィリアム・クラーク DPC	3:14.09
2	ジョーダン・ケルビー DPC	3:17.01
3	フィリップ・ホツツアト LAM	3:19.12

第2ステージ(美濃ステージ)

1	ワケル・ウィット DPC	3:47:36
2	ニコロ・ホニファジオ LAM	3:47:36
3	ブレント・ジョンズ ART	3:47:36

第3ステージ(南信州ステージ)

1	ピエール・オロテグ VFN	3:55:16
2	トマルハ BGT	3:55:18
3	グレガ・ホーレ VFN	3:56:29

第4ステージ(富士山ステージ)

1	ミルサ・ポルセイエディゴラコル TPT	38:51
2	ヒュー・カーシー RCJ	40:10
3	ダミアン・モエ BGT	40:17

第5ステージ(伊豆ステージ)

1	ガートル・ミズバニイナガ TPT	4:14:13
2	ヒュー・カーシー RCJ	4:14:16
3	ミルサ・ポルセイエディゴラコル TPT	4:14:16

第6ステージ(東京ステージ)

1	ニコロ・ホニファジオ LAM	2:22:14
2	グレガ・ホーレ VFN	2:22:14
3	ウィリアム・クラーク DPC	2:22:14



2014
CYCLINGSONE
Japan Track Cup
 Supported by **JKA**

I 男子エリートケイリン決勝

7月11～13日の3日間、静岡の伊豆ベロドロームにおいて、ジャパントラックカップI・IIが開催された。

本年1月に続き第2回目となる同大会、今回はアジアから大韓民国・ホンコンチャイナ・チャイニーズタイペイ・タイ・マレーシアなどの他、フランス・オーストラリア・ウクライナ・ドイツ・ロシア・USA・カナダ・リトアニア・スペインなど世界の強豪選手達が集結し行われた。

日本人選手も各種目で活躍し、I・II両大会において、チーム別総合成績1位に贈られるジャパントラックカップを見事受賞した。



I 男子エリートのスプリント3位のペルビス(右)



I 男子エリートのスプリント
 決勝の河端(手前)



I 女子ジュニアポイントレース

【競技結果】

JAPAN TRACK CUP I(Class1)
 (2014/7/11 静岡・伊豆ベロドローム)

Sprint Men Elite

- 1 仏・チェビン KOR KOR
- 2 河端 朋之 JPN JPC
- 3 ペルビス・フランソワ FRA FRA

Keirin Men Elite

- 1 渡邊 一成 JPN JPC
- 2 新田 祐大 JPN JPN
- 3 ホテイヤ・シュテファン GER CPSV

Points Race Men Elite

- 1 リー・ホビアー USA USA
- 2 橋本 英也 JPN JPN
- 3 シン・ドヒョン KOR KOR

Sprint Women Elite

- 1 ワード・ケイトリン AUS AUS
- 2 イ・ハジン KOR KOR
- 3 石井 貴子 JPN JPC

Keirin Women Elite

- 1 ヴァル・カイトリン LTU LTU
- 2 ワード・ケイトリン AUS AUS
- 3 石井 貴子 JPN JPC

Points Race Women Elite

- 1 キング・イザベラ AUS AUS
- 2 塚越さくら JPN JPN
- 3 パン・ヤオ HKG HKG

Scratch Race Men Junior

- 1 チェン・フィン・チョウ TPE TCCT

- 2 松本 憲斗 JPN JPN
- 3 阿部 将大 JPN HSCT

Keirin Men Junior

- 1 野上 竜太 JPN JPN
- 2 コン・シンファン TPE TCCT
- 3 チョイ・ヒュウ・ファン HKG HKG

Points Race Women Junior

- 1 梶原 悠未 JPN JPN
- 2 鈴木 奈央 JPN JPN
- 3 リ・チャー・イン TPE TCCT

Keirin Women Junior

- 1 鈴木 奈央 JPN JPN
- 2 チャン・ヤオ TPE TPE
- 3 ワン・チウ・チュン TPE TCCT



Ⅱ 男子ジュニアポイントレース



Ⅱ 女子エリートオムニアムの塚越(2番目)



Ⅱ 男子スプリント決勝の中川(左)



Ⅱ 男子エリートオムニアムの橋本(左)と窪木



Ⅱ 女子ジュニアケイリン決勝



Ⅱ 女子エリートのスプリントの前田(左)

【競技結果】

**JAPAN TRACK CUP II(Class1)
(2014/7/12-13 静岡・伊豆パドローム)**

Sprint Men Elite

- 1 中川誠一郎 JPN JPN
- 2 ホーティシャー・シュテファン GER CPSV
- 3 シュミット・ジェーコブ AUS AUS

Keirin Men Elite

- 1 ホーティシャー・シュテファン GER CPSV
- 2 坂本 貴史 JPN JPN
- 3 シュミット・ジェーコブ AUS AUS

Omnium Men Elite

- 1 リー・ホビー USA USA
- 2 マクマヌス・ティリアン AUS AUS
- 3 イム・ジエイン KOR KOR

Sprint Women Elite

- 1 ワート・ケイトリン AUS AUS
- 2 前田佳代乃 JPN JPN
- 3 クルパ・カイト・シタ LTU LTU

Keirin Women Elite

- 1 クルパ・カイト・シタ LTU LTU
- 2 小林 優香 JPN JPN
- 3 イ・ハジン KOR KOR

Omnium Women Elite

- 1 キング・イザベラ AUS AUS
- 2 塚越さくら JPN JPN
- 3 パン・ヤオ HKG HKG

Points Race Men Junior

- 1 チン・チン・チョウ TPE TCCT

- 2 松本 憲斗 JPN JPN
- 3 武智 気吹 JPN HSCT

Keirin Men Junior

- 1 コン・シンファン TPE TCCT
- 2 リョン・カユン HKG HKG
- 3 釘尾 真幸 JPN HSCT

Scratch Women Junior

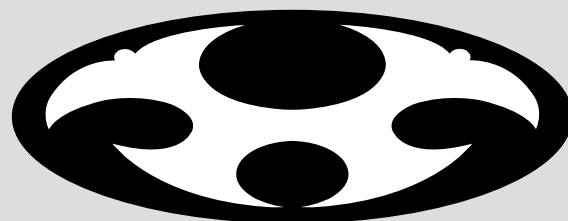
- 1 鈴木 奈央 JPN JPN
- 2 リー・チャー・イン TPE TCCT
- 3 梶原 悠未 JPN JPN

Keirin Women Junior

- 1 大久保花梨 JPN JPN
- 2 鈴木 奈央 JPN JPN
- 3 平井 杏奈 JPN HSCT

<p>MTB ワールドカップ 日本代表選手団 大会名 MTB ワールドカップ (XCO) 大会期間 2014年5月23日～25日 開催場所 チェコ・Nove Mesto na Morave 代表選手団 山田誉史輝 (長野) 沢田 時 (滋賀) * 山本幸平 (北海道) * 末政実緒 (兵庫) *</p> <p>大会名 MTB ワールドカップ (XCO) 大会期間 2014年5月30日～6月1日 開催場所 ドイツ・Albstadt 代表選手団 山田誉史輝 (長野) 山本幸平 (北海道) * 沢田 時 (滋賀) * 末政実緒 (兵庫) *</p> <p><small>* (UCI チーム経由登録)</small></p>	<p>UCI BMX スーパークロス ワールドカップ第3戦 日本代表選手団 大会名 UCI BMX スーパークロス ワールドカップ第3戦 開催場所 ドイツ・ベルリン 大会期間 2014年6月13日～14日 代表選手団 松下 翼・長迫吉拓 吉井康平・朝比奈綾香</p>	<p>大会期間 2014年6月29日 代表選手団 池田 祐樹 (東京・ TOPEAK ERGON RACING TEAM USA)</p>
<p>第16回 TOUR de 熊野 日本代表選手団 大会名 第16回 TOUR de 熊野 開催場所 和歌山・三重 熊野周辺コース 大会期間 2014年5月29日～6月1日 派遣期間 2014年5月28日～6月1日 代表選手団 監督 橋川 健 (ロード競技部会員) メカニック 齋藤健吾 (ロード強化支援スタッフ) マッサー 穴田悠吾 (ロード強化支援スタッフ) 選手 徳田鍛造 (鹿児島・鹿屋体育大学) 面手俊輝 (神奈川・EQA U23) 清水太己 (東京・EQA U23) 小石祐馬 (京都・ TEAM VINI FANTINI NIPPO DE ROSA) 徳田 優 (京都・鹿屋体育大学) 広瀬 樹 (神奈川・中央大学)</p>	<p>UCI MTB ワールドカップ日本代表選手団 大会名 UCI MTB ワールドカップ(DHI) 開催場所 オーストリア 大会期間 2014年6月14日～15日 代表選手団 井手川直樹・永田隼也 黒沢大介・井本はじめ 九島勇氣</p>	<p>TAIWAN Hsin-Chu Track International Classic 日本代表選手団 大会名 TAIWAN Hsin-Chu Track International Classic 開催場所 チャイニーズ・タイペイ 大会期間 2014年7月19日～21日 派遣期間 2014年7月17日～22日 代表選手団 スタッフ 村田正洋 (JCFコーチ・情報科学スタッフ) 中山真臣 (JCF強化支援スタッフ) 選手 雨谷一樹 (JPCA・JPCU 栃木)</p>
<p>UCI MTB ワールドカップ イギリス大会 日本代表選手団 大会名 MTB ワールドカップ (DHI) 開催場所 イギリス・Fort William 大会期間 2014年6月6日～8日 代表選手団 井手川直樹 (広島) 永田隼也 (神奈川) 黒沢大介 (東京) 井本はじめ (兵庫) 九島勇氣 (神奈川) 清水一輝 (愛知) *</p> <p><small>* (UCI チーム経由登録)</small></p>	<p>2014トラックオーストラリア国際大会 日本代表選手団 大会名 2014トラックオーストラリア国際大会 開催場所 オーストラリア・アデレード 大会期間 2014年6月18日～22日 派遣日程 2014年6月15日～24日 代表選手団 監督 飯島 誠 (選手強化コーチ) メカニック 森 昭雄 (選手強化支援スタッフ) 齋藤健吾 (選手強化支援スタッフ) マッサー 柳 浩史 (選手強化支援スタッフ) 奥隅信幸 (選手強化支援スタッフ) スタッフ 村田正洋 (専任情報科学スタッフ) 選手 渡邊一成 (JPCA・JPCU 福島) 新田祐大 (JPCA・JPCU 福島) 河端朋之 (JPCA・JPCU 岡山) 橋本英也 (岐阜・鹿屋体育大学) 近谷 涼 (富山・日本大学) 倉林巧和 (群馬・日本体育大学大学院) 一丸尚伍 (大分・EQA U23) 中川諒子 (JPCA・JPCU 新潟) 小林優香 (JPCA・JPCU 福岡) 前田佳代乃 (京都) 塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院) 上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院)</p>	<p>2014 UCI BMX 世界選手権大会 日本代表選手団 大会名 2014UCI BMX 世界選手権大会 開催場所 オランダ・ロッテルダム 大会期間 2014年7月21日～27日 派遣期間 2014年7月20日～29日 代表選手団 マネージャー マーティン・ワード (全日本 BMX 連盟強化スタッフ) コーチ 三瓶将廣 (全日本 BMX 連盟強化スタッフ) メカニック 光武正勝 (全日本 BMX 連盟強化スタッフ) マッサー 榊原由紀 (全日本 BMX 連盟強化スタッフ) アシスタント 千島輝大 (全日本 BMX 連盟) メカニック 猪俣健一 (連盟 BMX 小委員会委員) 総務 高橋 博 (連盟 BMX 小委員会委員) 選手 (チャンピオンシップレベル) 男子エリート 長迫吉拓 (岡山・MX インターナショナル) 松下 翼 (神奈川・早稲田大学大学院) 吉村樹希敢 (大阪) 女子エリート 山野本悠里 (広島) 男子ジュニア 池上悠斗 (大阪)・松村和真 (大阪) 橋本 蓮 (茨城) 女子ジュニア 瀬古遥加 (三重・Groovy Factory Team)</p>
<p>2014 ツール・ド・シンカラ 日本代表選手団 大会名 2014 ツール・ド・シンカラ 開催場所 インドネシア共和国・パタン 大会期間 2014年6月7日～15日 派遣期間 2014年6月5日～16日 代表選手団 監督 浅田 顕 (ロード競技部会員) コーチ 橋川 健 (ロード競技部会員) メカニック 中村 仁 (ロード強化支援スタッフ) マッサー 穴田悠吾 (ロード強化支援スタッフ) 選手 内間康平 (沖縄・プリジストンアンカー サイクリングチーム) 初山 翔 (神奈川・プリジストンアンカー サイクリングチーム) 黒枝咲哉 (大分・鹿屋体育大学) 内野直也 (埼玉・EQA U23) 面手利輝 (神奈川・EQA U23) 清水太己 (東京・EQA U23) 横山航太 (長野・シマノレーシング)</p>	<p>2014 トロフェオカールスベルク大会 日本代表選手団 大会名 2014 トロフェオカールスベルク (UCI ジュニアネイションズカップ) 開催場所 ドイツ 大会期間 2014年6月20日～22日 派遣期間 2014年6月18日～24日 代表選手団 監督 柿木孝之 (ロード競技部会員) メカニック 中村 仁 (ロード強化支援スタッフ) 選手 草場啓吾 (京都・北桑田高校) 孫崎大樹 (京都・北桑田高校) 石上優大 (神奈川・横浜高校) 松本祐典 (京都・明治大学) 橋詰 文 (東京・昭和第一学園高校) 中村圭佑 (東京・昭和第一学園高校)</p>	<p>ロード U23 夏季欧州遠征 日本代表選手団 開催場所 フランス・イタリア 派遣期間 2014年7月21日～8月28日 8/7 GP Monpazier (フランス 1.12.1) 8/10 GP PastaZARA (イタリア UCI 1.2) 8/16 GP CAPODARCO (イタリア UCI 1.2) 8/17 GP MARCEL BERGEREAU (フランス 1.12.1) 8/23-25 TOUR DE PIEMONT PYRENEEN (フランス 2.12.1) 代表選手団 スタッフ 浅田 顕 (JCF ロード競技部会員) メカニック 高橋優平 (JCF 強化支援スタッフ) 選手 徳田鍛造 (鹿児島・鹿屋体育大学) 徳田 優 (鹿児島・鹿屋体育大学) 石橋 学 (青森・鹿屋体育大学) 山本 隼 (山梨・中央大学/チーム石京) 黒枝士輝 (大分・Vini Fantini- NIPPO-De Rosa) 黒枝咲哉 (大分・鹿屋体育大学) 岡 篤志 (茨城・EQA U23) 小石祐馬 (京都・Vini Fantini- NIPPO-De Rosa)</p>
	<p>2014 MTB マラソン世界選手権大会 日本代表選手団 大会名 2014UCI MTB マラソン世界選手権大会 開催場所 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ</p>	

<p>2014 ツール・ド・ラビティビ大会 日本代表選手団</p> <p>大会名 2014 ツール・ド・ラビティビ (UCI ジュニアネイションズカップ)</p> <p>開催場所 カナダ</p> <p>大会期間 2014年7月22日～27日</p> <p>派遣期間 2014年7月18日～30日</p> <p>代表選手団</p> <p>監督 柿木孝之 (ロード競技部会員)</p> <p>コーチ 上田敬史 (ジュニア強化育成部会員)</p> <p>メカニック 中村 仁 (強化支援スタッフ)</p> <p>選手 松本祐典 (京都・明治大学)</p> <p>草場啓吾 (京都・北桑田高校)</p> <p>孫崎大樹 (京都・北桑田高校)</p> <p>小山貴大 (群馬・前橋育英高校)</p> <p>水谷 翔 (鹿児島・南大隅高校)</p> <p>富尾大地 (鹿児島・南大隅高校)</p>	<p>泉沢 仁 (群馬)・塩崎太夢 (山梨)</p> <p>ミニメ (13-14歳)</p> <p>安部健太 (埼玉)・豊澤 剛 (埼玉)</p> <p>ベンジャミン (11-12歳)</p> <p>氏川政哉 (三重)・池田 力 (岡山)</p> <p>ブッシン (9-10歳)</p> <p>広畑伸哉 (和歌山)</p>	<p>コーチ 飯島 誠 (強化コーチ) T</p> <p>高橋松吉 (強化コーチ) R</p> <p>鈴木雷太 (強化コーチ) M・B</p> <p>メカニック 森 昭雄 (強化支援スタッフ) T・R</p> <p>鬼原 積 (強化支援スタッフ) T</p> <p>仁木康夫 (強化支援スタッフ) M・B</p> <p>マッサー 柳 浩史 (強化支援スタッフ) T・R</p> <p>中山真臣 (強化支援スタッフ) T</p> <p>井上良輝 (強化支援スタッフ) R・M・B</p> <p>ドクター 金井貴夫 (医学支援スタッフ) T</p> <p>小林裕幸 (医学支援スタッフ) R・M・B</p> <p>スタッフ 村田正洋 (情報・科学スタッフ) T・R・M・B</p> <p>選手</p> <p><トラック></p> <p>中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)</p> <p>渡邊一成 (JPCA・JPCU 福島)</p> <p>河端朋之 (JPCA・JPCU 岡山)</p> <p>脇本雄太 (JPCA・JPCU 福井)</p> <p>窪木一茂 (和歌山・和歌山県庁/チーム右京)</p> <p>橋本英也 (岐阜・鹿屋体育大学)</p> <p>近谷 涼 (富山・日本大学)</p> <p>一丸尚伍 (大分・EQA U23)</p> <p>前田佳代乃 (京都)</p> <p>石井貴子 (JPCA・JPCU 千葉)</p> <p>加瀬加奈子 (JPCA・JPCU 新潟)</p> <p>塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院)</p> <p>上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院)</p> <p>小島蓉子 (千葉・日本体育大学大学院)</p> <p>中村妃智 (千葉・日本体育大学)</p>
<p>2014 UCI ワールドカップ パラサイクリングロード・セゴビア大会 日本代表選手団</p> <p>大会名 2014 UCI ワールドカップ パラサイクリングロード・セゴビア大会</p> <p>開催場所 スペイン・セゴビア</p> <p>大会期間 2014年7月25日～27日</p> <p>派遣期間 2014年7月22日～29日</p> <p>代表選手団</p> <p>コーチ 権丈泰巳 (JPCF 強化スタッフ)</p> <p>メカニック 鬼原 積 (JCF・JPCF 強化スタッフ)</p> <p>マッサー 菊地孝明 (JCF・JPCF 強化スタッフ)</p> <p>選手 藤田征樹 (茨城・日立建機)</p> <p>鹿沼由理恵 (東京・メットライフ生命保険)</p> <p>田中まい (千葉・日本競輪選手会)</p> <p>藤井美穂 (東京・謝鉄道弘済会)</p>	<p>2014 ジュニア・トラック世界選手権大会 日本代表選手団</p> <p>大会名 2014 ジュニアトラック世界選手権</p> <p>開催場所 大韓民国・ソウル</p> <p>大会期間 2014年8月8日～12日</p> <p>派遣期間 2014年8月5日～13日</p> <p>代表選手団</p> <p>監督 吉井功治 (強化支援コーチ)</p> <p>メカニック 森 昭雄 (強化支援スタッフ)</p> <p>マッサー 奥隅信幸 (強化支援スタッフ)</p> <p>スタッフ 村田正洋 (情報・科学スタッフ)</p> <p>選手 野上竜太 (岡山・鹿屋体育大学)</p> <p>布居 翼 (和歌山・和歌山北高校)</p> <p>松本憲斗 (熊本・ルーテル学院高校)</p> <p>中村滝一 (福島・平工業高校)</p> <p>鈴木奈央 (静岡・星陵高校)</p> <p>大久保花梨 (福岡・祐誠高校)</p> <p>梶原悠未 (埼玉・筑波大学附属坂戸高校)</p>	<p><ロード></p> <p>宮澤崇史 (JPCA・VINI FANTINI NIPPO DE ROSA)</p> <p>別府史之 (JPCA・TREK FACTORY RACING)</p> <p>上野みなみ (青森・鹿屋体育大学大学院)</p> <p>塚越さくら (鹿児島・鹿屋体育大学大学院)</p> <p><MTB></p> <p>山本幸平 (北海道・SPECIALIZED RACING XC)</p> <p>沢田 時 (滋賀・BRIDGESTONE ANCHOR)</p> <p>中込由香里 (長野・team SY-Nak)</p> <p><BMX></p> <p>三瓶将廣 (神奈川・SYSTEMATIC BMX)</p> <p>松下 翼 (神奈川・早稲田大学大学院)</p> <p>飯端美樹 (大阪)</p> <p>山野本悠里 (広島・環太平洋大学)</p>
<p>2014 UCI トライアル ワールドユースゲーム 日本代表選手団</p> <p>大会名 2014 UCI トライアル ワールドユースゲーム</p> <p>開催場所 ポーランド・ザビエルチェ</p> <p>大会期間 2014年8月2日～3日</p> <p>代表選手団</p> <p>カデット (15-16歳)</p>	<p>第17回アジア競技大会 (2014/仁川) 日本代表選手団</p> <p>大会名 第17回アジア競技大会(2014/仁川)</p> <p>開催場所 大韓民国・仁川</p> <p>大会期間 2014年9月20日～10月1日</p> <p>派遣日程 2014年9月16日～10月2日</p> <p><トラック> 9月20日～25日</p> <p>派遣 9月16日～26日</p> <p><ロード> 9月27日～29日</p> <p>派遣 9月23日～30日</p> <p><MTB> 9月30日</p> <p>派遣 9月26日～10月2日</p> <p><BMX> 10月1日</p> <p>派遣 9月26日～10月2日</p> <p>代表選手団</p> <p>監督 坂本 勉 (強化コーチ) T</p>	



Kabuto

Safety Meets Style



Twitter

@OGK_KABUTO



Facebook

www.facebook.com/ogkkabuto

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第48回 JBCF 西日本トラック (2014/5/11 大阪・関西 CSC)

男子スプリント

- 1 深谷 知広 愛知 ホンジャンス
- 2 藤井 昭吾 滋賀 岩井商会レーシング
- 3 吉松 直人 高知 ホンジャンス

男子 1km タイムトライアル

- 1 伊藤 保文 JPCA ホンジャンス 1:06.492
- 2 奥平 充男 京都 岩井商会 1:08.295
- 3 岡田 真 島根 マリノールト 1:10.000

男子ケイリン

- 1 佐野 伸弥 岐阜 MINOURA 大垣
- 2 笹原 康彦 岐阜 MINOURA 大垣
- 3 林 竜広 愛知 チーム・チェアロ

男子ジュニア 3km 個人バーステート

- 1 平林 楓輝 愛媛 松山聖陵高4:01.222
- 2 日野 泰静 愛媛 ホンジャンス 4:21.771

男子 4km 個人バーステート

- 1 山本 貴洋 和歌山 MUUR zero 5:01.575
- 2 柳澤 正 愛知 Logisty Jack 5:03.679
- 3 大塚 航 京都 JP Sports 5:11.541

男子スクラッチ (10km)

- 1 皿屋 豊 三重 伊ノメ信濃 3:21.577
- 2 原 隆成 島根 チームサイクルプラス
- 3 伊藤 舜紀 北海道 ホンジャンス

男子ポイントレース (30km)

- 1 伊藤 舜紀 北海道 ホンジャンス 41p
- 2 岡田 真 島根 マリノールト TT 31p
- 3 中西 重智 滋賀 JP SPORTS 29p

男子チームスプリント

- 1 ホンジャンス 伊藤・吉松・深谷 1:15.803
- 2 岩井商会 大谷・藤井・小谷 1:17.453
- 3 Pinazou 中澤・武井・松嶋 1:26.614

女子 500m タイムトライアル

- 1 小坂 知子 JPCA 岩井商会 37.140
- 2 松尾 智佳 愛媛 ホンジャンス 40.840
- 3 大和久保美 福岡 ホンジャンス 41.000

女子ジュニア 2km 個人バーステート

- 1 坂口 楓華 兵庫 ハナニックL 2:47.480
- 2 岸下 実樹 大阪 トゥールス 3:07.365

女子 3km 個人バーステート

- 1 大和久保美 福岡 ホンジャンス 4:19.840

第16回修善寺カップ女子オープントラック&ロードレース (2014/5/17-18 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

- 1 梶原 悠未 筑波大学附属坂戸高校 7p
- 2 齋藤 望 日本体育大学 15p
- 3 江藤里佳子 鹿屋体育大学 18p
- 4 合田祐美子 早稲田大学 28p
- 5 宮田 菜摘 朝日大学 40p
- 6 中村 友香 鹿屋体育大学 40p

第61回全日本選手権自転車競技大会 トラックレース (2014/5/19 茨城・取手競輪場)

スプリント

- 1 中川誠一郎 熊本 九州地区

- 2 金子 貴志 愛知 中部地区
- 3 根田 空史 千葉 南関東地区

1km タイムトライアル

- 1 竹内 雄作 岐阜 中部地区 1:05.052
- 2 永井 清史 岐阜 中部地区 1:05.311
- 3 稲毛 健太 和歌山 近畿地区 1:05.687

ケイリン

- 1 南 修二 大阪 近畿地区
- 2 浅井 康太 三重 中部地区
- 3 稲川 翔 大阪 近畿地区

4km 個人バーステート

- 1 岡嶋 登 大阪 近畿地区 4:52.325
- 2 北津留 翼 福岡 九州地区 4:54.644
- 3 大屋 健司 広島 中国地区 4:55.437

リミテーションス

- 1 竹山 陵太 宮城 北日本地区
- 2 椎木尾拓哉 和歌山 近畿地区
- 3 萩原 操 三重 中部地区

チームスプリント

- 1 四国地区 池田・橋本・戸田 1:15.675
- 2 中部地区 竹内・松岡・森川 1:15.878
- 3 関東地区 矢口・木暮・小林 1:16.035

4km チームバーステート

- 1 近畿 渡辺・角・伊原・脇本 4:24.333
- 2 中部 山口・吉田・児玉・川西 4:27.874
- 3 九州 加藤・安東・小岩・鈴木 4:33.453

アサヒアカツ (女子)

- 1 石井 寛子 東京
- 2 三輪 梓乃 広島
- 3 森 美紀 福岡

八幡浜国際クロスカントリー (2014/5/25 愛媛・八幡浜)

男子リフト XCO (33.60km)

- 1 斉藤 亮 長野 BS アンカー 1:39:48.45
- 2 門田 基志 愛媛 GIANT +2:09.85
- 3 平野 星矢 長野 BS アンカー +2:52.82

女子リフト XCO (22.40km)

- 1 小林可奈子 長野 Azumino 1:30:15.82
- 2 中島 峻歩 山梨 GIANT +4:19.40
- 3 相野田静香 長野 LITEC +5:04.98

第53回全日本学生選手権自転車ロードレース大会 (2014/5/25 埼玉・利根川河川敷)

チームタイムトライアル (62.4km)

- 1 鹿屋体育大学 1:17:01.65
- 2 中央大学 1:19:21.78
- 3 朝日大学 1:20:28.88
- 4 早稲田大学 1:21:28.48
- 5 法政大学 1:21:30.53
- 6 京都産業大学 1:21:36.87

ツールド・熊野 (2014/5/29-6/1 和歌山・新宮他)

個人総合順位

- 1 MANCEBO Francisco SKD 8:04:59
- 2 TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente UKO 8:05:05
- 3 BAYLY Cameron TSI 8:05:07
- 4 中根 英登 AIS 8:05:09
- 5 SHEPPARD Eric Timothy TSI 8:05:10
- 6 NORRIS Lachlan DPC 8:05:11

チーム総合順位

- 1 シカゴ ホール・コンチネンタル・サイクリングチーム 24:19:12

- 2 チーム右京 24:19:23
- 3 ブリヂング・ストーン・サイクリングチーム 24:22:05

ポイント賞

- 1 WIPPERT Wouter DPC 58p
- 2 MANCEBO Francisco SKD 51p
- 3 CLARKE William DPC 50p

山岳賞

- 1 PUJOL MUNOZ Oscar SKD 18p
- 2 PRADES Benjami MTR 12p
- 3 CRAWFORD Jai DPC 10p

Prologue - Time Trial (0.7km)

- 1 CLARKE William DPC 51.05
- 2 HSIAO Shih Hsin TGT 51.20
- 3 WIPPERT Wouter DPC 51.39

1st Stage (111.3km)

- 1 WIPPERT Wouter DPC 2:33:21
- 2 CLARKE William DPC 2:33:21
- 3 HAEDO Lucas Sebastian SKD 2:33:21

2nd Stage (109.3km)

- 1 MANCEBO Francisco SKD 3:03:07
- 2 TORIBIO ALCOLEA Jose Vicente UKO 3:03:07
- 3 BAYLY Cameron TSI 3:03:07

3rd Stage (100.0km)

- 1 WIPPERT Wouter DPC 2:27:48
- 2 CLARKE William DPC 2:27:48
- 3 吉田 隼人 SMN 2:27:48

Jシリーズ J1DHI/XCO 富士見バード大会 (2014/5/31-6/1 長野・富士見バードリゾート)

タイムリフト 男子リフト

- 1 加藤 将来 愛知 LoveBikes 2:23.996
- 2 青木 卓也 東京 GIANT 2:24.819
- 3 浅野 善亮 愛知 GIANT 2:25.216

タイムリフト 女子リフト

- 1 中川 弘佳 大阪 Lovespo 2:54.846
- 2 吉川千香子 愛知 DKMC 2:57.088
- 3 中村 美佳 福井 MTB Park 2:57.216

クロスカントリー 男子リフト (32.48km)

- 1 斉藤 亮 長野 BS アンカー 1:42:52.16
- 2 平野 星矢 長野 BS アンカー 1:45:06.49
- 3 門田 基志 愛媛 GIANT 1:46:30.93

クロスカントリー 女子リフト (23.20 km)

- 1 小林可奈子 長野 Azumino 1:36:54.19
- 2 中込由香里 長野 SY-Nak 1:38:15.28
- 3 中島 峻歩 山梨 SY-Nak 1:44:08.19

第30回全日本学生選手権個人ロードレース大会 (2014/6/7-8 長野・奥木首湖)

男子 (181km)

- 1 秋田 拓磨 福井 朝日大学 4:36:11
- 2 片桐 善也 新潟 日本大学 4:36:18
- 3 高士 拓也 三重 中央大学 4:36:21
- 4 山本 大喜 奈良 鹿屋体育大 4:36:28
- 5 徳田 鍛造 鹿児島 鹿屋体育大 4:36:36
- 6 阿曾 圭佑 三重 中京大学 4:36:40

女子 (73km)

- 1 合田祐美子 福島 早稲田大学 2:06:51
- 2 江藤里佳子 大分 鹿屋体育大 2:08:00
- 3 櫻木 祥子 岡山 駒澤大学 2:08:49
- 4 伊藤 杏菜 愛知 中京大学 2:12:02
- 5 宮田 菜摘 岐阜 朝日大学 2:19:09
- 6 神庭 睦実 茨城 順天堂大学 2:19:38

2014 ツール・ド・シンカラ
(2014/6/7-15 インドネシア・パナマ)

個人総合成績

1	ZARGARI Amir	PKY	28:31:48
2	EMAMI Rahim	PKY	28:33:25
3	MEHRBANIAZAR	PKY	28:36:40
9	初山 翔	JPN	28:45:59
55	内野 直也	JPN	29:27:42
61	横山 航太	JPN	29:34:48
63	黒枝 咲哉	JPN	29:39:16

団体総合成績

1	PISHGAMAN YAZD	85:37:28
2	TABRIZ SHAHRDARI	86:01:38
3	7 ELEVEN ROADBIKE	86:33:20
6	JAPAN NATIONAL TEAM	86:59:41

第1ステージ (98.5km)

1	内間 康平	JPN	2:11:51
2	AHMED MIRZA ALHAMMADI Yousif Mohamed	UAE	2:11:54
3	PUJOL MUNOZ Oscar	SKD	2:11:54
29	面手 利輝	JPN	2:12:12
62	初山 翔	JPN	2:12:12
69	黒枝 咲哉	JPN	2:12:12
79	清水 太己	JPN	2:12:12
80	内野 直也	JPN	2:12:12
96	横山 航太	JPN	2:12:12

第2ステージ (123.5km)

1	ALIZADEH Hossein	TSR	3:06:31
2	MOAZEMI GODARZI Arvin	PKY	3:06:31
3	ZARGARI Amir	PKY	3:06:31
16	初山 翔	JPN	3:12:48
31	内間 康平	JPN	3:12:48
66	内野 直也	JPN	3:17:36
74	黒枝 咲哉	JPN	3:17:36
75	面手 利輝	JPN	3:17:36
90	清水 太己	JPN	3:17:36
96	横山 航太	JPN	3:25:13

第3ステージ (100km)

1	MEHRBANIAZAR Ramin	PKY	2:32:54
2	SURYADI Dadi	PCT	2:32:59
3	初山 翔	JPN	2:32:59
7	内間 康平	JPN	2:33:06
43	内野 直也	JPN	2:38:46
51	横山 航太	JPN	2:38:46
77	面手 利輝	JPN	2:43:37
78	黒枝 咲哉	JPN	2:43:37
80	清水 太己	JPN	2:43:37

第4ステージ (165km)

1	EMAMI Rahim	PKY	4:28:15
2	ZARGARI Amir	PKY	4:28:31
3	MEHRBANIAZAR Ramin	PKY	4:28:44
13	初山 翔	JPN	4:30:36
31	横山 航太	JPN	4:34:05
51	内野 直也	JPN	4:37:20
57	面手 利輝	JPN	4:40:58
69	内間 康平	JPN	4:42:02
75	黒枝 咲哉	JPN	4:44:54
87	清水 太己	JPN	4:48:46

第5ステージ (102km)

1	PUJOL MUNOZ Oscar	SKD	2:23:42
2	FITRIYANTO Hari	INA	2:23:42
3	NOHALES NIETO Edgar	T7E	2:23:42
28	横山 航太	JPN	2:23:47
35	初山 翔	JPN	2:23:47
58	清水 太己	JPN	2:23:47
69	内間 康平	JPN	2:23:47
85	黒枝 咲哉	JPN	2:33:12
93	内野 直也	JPN	2:33:12
96	面手 利輝	JPN	2:40:16

第6ステージ (111km)

1	内間 康平	JPN	2:37:48
2	HADDI Soufiane	SKD	2:38:27
3	SURYADI Dadi	PCT	2:38:29
7	黒枝 咲哉	JPN	2:39:16

33	内野 直也	JPN	2:39:16
43	初山 翔	JPN	2:39:16
85	横山 航太	JPN	2:52:09
89	面手 利輝	JPN	2:52:09
90	清水 太己	JPN	2:52:09

第7ステージ (167km)

1	JONES Brenton	ART	4:00:02
2	SOHRABI Mehdi	TPT	4:00:02
3	BORDEOS Mark Julius	T7E	4:00:02
5	黒枝 咲哉	JPN	4:00:02
15	初山 翔	JPN	4:00:02
17	内野 直也	JPN	4:00:11
64	内間 康平	JPN	4:00:59
75	横山 航太	JPN	4:02:44
78	面手 利輝	JPN	4:02:57
79	清水 太己	JPN	4:00:33

第8ステージ (167km)

1	HADDI Soufiane	SKD	4:25:08
2	ZARGARI Amir	PKY	4:25:08
3	MEHRBANIAZAR Ramin	PKY	4:25:10
11	初山 翔	JPN	4:31:11
24	内間 康平	JPN	4:41:44
25	横山 航太	JPN	4:42:24
50	黒枝 咲哉	JPN	4:45:19
56	内野 直也	JPN	4:45:19
67	清水 太己	JPN	4:45:19
	面手 利輝	JPN	DNF

第9ステージ (120km)

1	JONES Brenton	ART	2:43:12
2	HADDI Soufiane	SKD	2:43:12
3	黒枝 咲哉	JPN	2:43:12
41	初山 翔	JPN	2:43:12
66	横山 航太	JPN	2:43:28
69	内野 直也	JPN	2:43:50
	清水 太己	JPN	DNF
	内間 康平	JPN	DNS

■ 加盟団体事務局住所変更 (平成26年4月より)

●長野県自転車競技連盟

〒399-8101 長野県安曇野市三郷明盛 3051-1
アズミノバイク内 TEL & FAX: 0263-77-8118

●兵庫県自転車競技連盟

〒657-0163 兵庫県加古郡播磨町古宮 167-3
兵庫県立播磨南高校内 TEL: 090-6823-1082

■ 評議員変更について (平成26年6月24日付)

群馬県 清水 一孝氏 ← 水島 洋一氏
神奈川県 矢島 幸一氏 ← 落合 健志氏

連盟の動き (6月上旬～7月下旬)

6月 5日	ツール・ド・シンカラ日本代表選手団出発	於：インドネシア 帰国→6/16
15日	トラックオーストラリア国際大会代表選手団出発	於：オーストラリア 帰国→6/24
18日	トロフェオカールベルグ ジュニア代表選手団出発	於：ドイツ 帰国→6/24
19日	平成26年度第2回選手強化委員会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
21日	平成26年度第1回シクロクロス小委員会	於：東京・自転車総合ビル5階 JCF事務局
24日	平成26年度定時評議員会	於：東京・フクラシア品川 会議室
7月11日	平成26年度第2回競技運営委員会	於：静岡・サイテル、伊豆ペロドローム (~12日)
13日	平成26年度第3回選手強化委員会	於：静岡・伊豆ペロドローム
17日	Hsin-Chuトラックインターナショナル選手団出発	於：チャイニーズ・タイペイ 帰国→7/22
18日	ツール・ド・ラビティビ 日本代表選手団出発	於：カナダ 帰国→7/30
20日	BMX世界選手権大会日本代表選手団出発	於：オランダ 帰国→7/29
31日	平成26年度第2回選手強化本部会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室
31日	平成26年度第2回広報部会	於：東京・自転車総合ビル 7階会議室



第34回アジア自転車競技選手権大会 第21回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

<トラックエリート短距離>

大会1日目、男子チームスプリントは、ロンドンオリンピックメンバーで臨む。予選スタートは、上手く決まったように見えたが、2走の渡辺がフライングをとられ再スタートとなる。再スタート、慎重にスタートした渡辺が出遅れ、1走の新田にやや離れ追走。3走の中川もスピードに乗り切れないままゴール。予想よりも大幅に悪いタイムであるが、3位通過となる。午後からの3位決定戦では、記録更新を目標にギアを上げる。本来の良さが発揮できず、予選を上回ったが平凡な記録での3位に終わった。

男子エリートチームスプリント予選



女子スプリント。200m予選で、前田5位、石井7位通過となる。1/8Fでは、5組前田、6組石井で、共に韓国選手を対戦し、2人とも圧勝して1/4Fに進む。

大会2日目、女子スプリント1/4F。石井の対戦相手は、ロンドンオリ

ピックメダリストのLEE(香港)である。やはりワールドクラスの相手に1本目2本目とも力の違いを見せつけられて敗れ、5-8位決定戦へ。前田の対戦相手は、予選4位通過のレース巧者MUSTAPA(マレーシア)である。1本目、ラスト1周で先行する相手を、バックから一気に捲り先勝。2本目、インスタートから先行態勢に持ち込み、ゴール前のきわどい勝負に勝ち1/2Fに進む。5-8位決定戦、石井はインスタートで積極的に先行するが、MUSUTAPAに捲られ7位確定となる。

WEスプリント1/4Fの前田(右)



午後からは、男子スプリントの200m予選。新田はスピードに乗りきれず5位。中川は、本来のスピードを発揮し1位通過となる。

大会3日目、女子スプリント1/2F。前田の対戦相手は予選1位通過の中国選手。1本目アウトスタートの前田は、ラスト2周でインから前に出て先行するが捲られる。2本目、インスタートの前田はラスト1周、インをつかれ逃げ切られ、世界との差を感じたレースであった。

男子スプリント1/8F、1組目中川、5組目新田とも、圧勝で1/4Fに進む。1/4Fでは、中川は貫録勝ちで1/2Fに進む。新田の対戦相手は、格上の韓国選手。1本目、インスタートの新田は、韓国選手に内をつかれ先行され、逃げ切られてしまう。2本目、アウトスタートの新田、今度はラスト1周で内をつき先行するも、僅差のゴールとなり敗れ、5-8位決定戦へ。

MEスプリント1/4Fの新田(手前)



3日目、女子スプリント3-4位決定戦、前田の対戦相手は、石井が1/4Fで対戦した香港の選手である。前田は、1本目、2本目とも先行するも、スピードの違いから敗れ4位確定。

男子スプリント5-8位決定戦、新田の対戦相手は、マレーシア選手2人と中国選手である。新田は、ラスト1周で先行態勢をとっていたが、中国選手にインをつかれ、終始内に包まれ動けず3着ゴール、7位確定。

大会4日目、男子スプリント1/2F、中川の対戦相手は、新田が1/4Fで敗れた韓国の選手。1本目、2本目とも圧勝で、決勝へ進む。決勝の相手は、AWANG(マレーシア)。1本



ME スプリント決勝の中川 (手前)

目、中川は積極的に先行し先勝。2本目、中川は先行態勢、ラスト1周すぎAWANGが外側から急激に斜行し、中川に差し込む。危険を察知した中川は踏めない。AWANGの反則をすぐにコミッセルにアピールするも認められず、3本目に入る。3本目、中川は2本目と同じレース展開に持込みラスト1周、アウトからダッシュするAWANGに合わせようと中川もダッシュするが、力みすぎて後輪が激しく飛び、バランスを崩して踏めなくなりAWANGに行かれてしまい2位となる。後味の悪い決勝戦だった。

女子チームスプリント予選、1走は前田、2走は石井で臨み3位通過。3-4位決定戦、スタートが決まり、対戦のマレーシアに先着し、3位確定。



WE チームスプリント予選



ME 1kmTT の脇本

500mTTに出場した前田はスタートが決まり、現状においては妥当なタイムを出した。5位確定。

1kmTTに出場した脇本は、スタートに失敗し、大きく出遅れた。後半はスピードに乗り追いつけるが、1秒以上届かず2位となる。

女子ケイリン、加瀬と石井が出場。1回戦、両者とも3位で通過し、決勝へ進む。決勝では加瀬がラスト2周から先行し、まくられはしたが4位と健闘した。石井は競技経験不足から、6位で終わる。



WE ケイリン決勝の加瀬

男子ケイリン、渡邊と脇本が出場。1回戦は、ともに1位で圧勝。2回戦は、同組で脇本1位、渡邊2位で決勝へ。決勝ではラスト2周半、マレーシア3選手が前団をとり、苦しい展開となった。ラスト1周半から、4番手にいた渡邊が渾身の力を打って一気に先行し、これに続いた脇本がバックからスパートしゴールを決める。まさしくチームプレーの優勝であった。(坂本 勉)

<トラックエリート中距離>

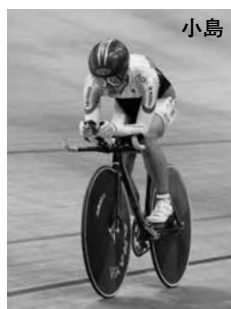
5月22日(木)

○3kmIP 予選

小島蓉子が日本チームの先陣を切ってスタート。目標の40秒台には一歩届かなかったが、自己ベストを更新する3分50秒540で5位。

○4kmIP 予選

近谷涼が出走。10周目まで日本記録更新ペースを刻むも後半失速し、4分35秒416の6位に終わる。課題は残るも、前半の走りは可能



小島



近谷

性を感じさせる良い走りだった。

○女子ポイントレース 決勝

中村妃智が出場。前半はしっかり流れに乗る事、中盤以降チャンスがあれば逃げるようレース前にアドバイス。落ち着いたレース運びで、絶妙なタイミングでのアタック、1lap39点で優勝! 持ち味の思い切りの良さと、持久力が光る走りだった。



WE ポイントの中村 (右)

5月23日(金)

○女子4kmTP 予選

塚越さくら、加瀬加奈子、小島、中村。今回は欠場した上野の代わりに、急遽加瀬で望む。このチームの課題でもある後半を上手くまとめ、4分41秒641で5位。目標の30秒台には届かない結果となった。予選トップの中国とは10秒以上の差があり、更なる走力アップは急務といえる。



WE チームパーシュート予選

○男子4kmTP 予選

窪木一茂、近谷、橋本英也、倉林巧和で出走。4分一桁台を目標に、合宿で最も強化してきた種目。目標クリアーには、スタート後2走3走で設定ペースに乗せ、それをいかに落とさず一定に保てるかがカギとなる。2kmまでは設定ペースで走れたが、そこからタイムが上がらず4分10秒628の4位で、翌日の3-4位決定戦に進んだ。



ME チームパーシュート予選

○男子ポイントレース 決勝

TP 予選から続いて窪木が出場。インターバル時間が無く、序盤から厳しい展開が続く。香港と台湾がリードして迎えた終盤、上手く抜け出して1lapする事が出来た。最終ポイント次第では3位表彰台もあったが、力及ばず31点の6位に終わる。



ME ポイントの窪木(右)

5月24日(土)

○女子オムニウム フライングラップ

世界戦に続き塚越が出場。助走でしっかりスピードに乗せて、14秒709で5位。普段のアジア選なら上位を狙えるタイムだが、今回はどの国もオリンピックを見据え、男女共にかなり良いメンバーで来ており、この順位からもこれからの厳しい戦いが予想された。

○男子オムニウム フライングラップ

こちらも世界戦に続き橋本が出場。13秒605で4位。トップ中国に13秒168と水をあけられたが、まずまずのポジションに付けた。

○男子4kmTP 3-4位決定戦

予選3位の韓国と争う。メンバーを橋本から原田に変更。予選での走りを修正し、記録を狙っていく。中盤でタイムを落としてしまい4分一桁はならず、4分10秒278と予選記録は更新したが、韓国に負けて4位に終わる。継続的な強化でチーム全体のレベルは上がったが、世界に向け男女共に課



ME オムニアムの橋本

題が残るタイムと結果となった。

○女子オムニウム ポイントレース

レース中盤上位陣の間をつきアタック、大きく集団からとび出したがペースが上がらず、lap出来ずに吸収されて結果6位となる。もし1Lapしていれば1位だったので悔しいレースとなった。

○男子オムニウム ポイントレース

香港とのマッチレースも、終盤に加点出来ず2位となる。橋本のゲーム系種目の安定は素晴らしい。

○女子スクラッチ

ポイントレース優勝の中村が出場。前半から積極的に勝負をかけるも、スピード、切れ、タイミングが中途半端で抜け出せず5位に終わる。



WE スクラッチの中村(先頭)

○男子スクラッチ

全日本優勝の原田が出場。大事な局面で後手に回ってしまい、-1lapの6位に終わる。優勝はベテランの韓国選手。レース全般で経験不足からくる無駄な足が多かったので、レース後ビデオで自身の走りを客観的に見せ、修正点をアドバイスする。



ME スクラッチの原田

○女子オムニウム エリミネーション

目標の4位に届かず、5位でエリミネート。ポイントレースに続き悔しい結果で、総合5位で初日を終えた。

○男子オムニウム エリミネーション

途中一度危ない場面があったが、その後は終始安定しており、香港を下し1位となる。総合も1位で初日を折り返す。年間を通しワールドカップ、世界選手権でもまれた成果が出た。

5月26日(日)

○女子オムニウム IP

前半を少し抑えて入り、中盤から後半



WE オムニアムの塚越(中央)

にかけてペースを維持するようアドバイス。結果2位と1秒の僅差の3位。

○男子オムニウム IP

終始安定したラップを刻むも4位に終わる。近年この種目の上積みが一番無く、TPの牽引役としてもしっかり強化していきたい。

○女子オムニウム スクラッチ

事前の作戦通り、上位陣がお見合いをしている際に、香港、マレーシア、日本で集団を1lap。ラストのゴール勝負は、スプリント力がある中国の後ろを取るようアドバイス。一歩も引かない素晴らしい位置取りだったが、最後に香港に差され2位でゴール。レース内容は良かった。

○男子オムニウム スクラッチ

総合に関係ない、カザフスタンとウズベキスタンの選手が1lap。最後は女子同様ゴール勝負になる。先行した中国の番手を取りきった橋本が、集団の先頭を取り3位。最終種目を前に、総合1位に振り返る。

○女子オムニウム 500mTT

総合1位の中国選手と、1/1000秒まで同タイムの36秒307で3位フィニッシュ。その結果1つ順位を上げ、総合4位で終えた。世界と戦う上で更なるゲーム系の強化は急務だが、1年間で本当に良く成長してくれた。

○男子オムニウム 1KmTT

スタートブロックに引っ掛かってしまい、痛恨のタイムロス。これが最後まで響き1分05秒955の6位。総合で中国(18p)に逆転され、2位(20p)で今年のアジア選手権を終えた。今回の順位を振り返ると、ゲーム系種目は2位、1位、3位、タイム系種目は4位、4位、6位という結果。ゲーム系種目は実力上位者でも取りこぼす可能性もあり、コンスタントに成績を残すには、更なるタイム系の強化が必要だ。これはオムニウム選手だけではなく、強化選手全般に共通する課題だといえる。(飯島 誠)



【競技結果】

第34回アジア自転車競技選手権大会 (5/22-26 かつん・アスカ)

男子エリート スプリント

- 1 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 2 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 3 KANG Dongjin KOR



- 7 新田 祐大 JPCA JPCU 福島

男子エリート 1km タイムトライアル

- 1 IM Chaebin KOR 1:01.879
- 2 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井 1:03.160
- 3 WU Lok Chun HKG 1:03.724



男子エリート ケリ

- 1 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井
- 2 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 3 IM Chaebin KOR



- 5 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島

男子エリート 4km 個人ハーフマラソン

- 1 IM Jaeyeon KOR 4:29.220
- 2 YUAN Zhong CHN 4:34.847
- 3 KHALILIKHOSROSHAHI Behnam IRI 4:31.015
- 6 近谷 涼 富山 日本大学 4:35.416

男子エリート スクラッチ (15km)

- 1 CHO Hosung KOR
- 2 KHALILIKHOSROSHAHI Behnam IRI
- 3 FENG Chun Kai TPE
- 6 原田 裕成 岡山 鹿屋体育大学 -1lap

男子エリート ホイットレース (30km)

- 1 CHEUNG King Lok HKG 55p
- 2 FENG Chun Kai TPE 50p
- 3 RAJABLOU Mohammad IRI 39p
- 6 窪木 一茂 和歌山 県庁 / チーム右京 31p

男子エリート 仏七

- 1 LIU Hao CHN 18p
 - 2 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大学 20p
- FL: 4, PR: 2, EL: 1, IP: 4, SH: 3, TT: 6
- 3 CHEUNG King Lok HKG 21p



男子エリート チームスプリント

- 1 韓国 44.478
- 2 中国 44.967
- 3 日本 中川・渡邊・新田 44.737



男子エリート 4km チームハーフマラソン

- 1 中国 4:05.455
- 2 ホンコンチャイ 4:10.247
- 3 韓国 4:08.082
- 4 日本 窪木・倉林・近谷・原田 4:10.278

女子エリート 500m タイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG 34.063
- 2 LEE Hyejin KOR 34.584
- 3 MUSTAPA Fatehah MAS 34.898
- 5 前田佳代乃 京都 35.394

女子エリート スプリント

- 1 LIN Junhong CHN
- 2 ZHONG Tianshi CHN
- 3 LEE Wai Sze HKG
- 4 前田佳代乃 京都

女子エリート ケリ

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 KIM Wongyeong KOR

- 3 ZHONG Tianshi CHN

- 4 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟
- 6 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子エリート 3km 個人ハーフマラソン

- 1 JING Yali CHN 追抜勝
- 2 PANG Yao HKG
- 3 NA Ahreum KOR 3:44.157
- 5 小島 蓉子 千葉 日体大院 3:50.540

女子エリート スクラッチ (10km)

- 1 HUANG Dongyan CHN
- 2 YANG Qian Yu HKG
- 3 TSENG Hsiao Chia TPE
- 5 中村 妃智 千葉 日本体育大学

女子エリート ホイットレース (20km)

- 1 中村 妃智 千葉 日本体育大学 39p
- 2 NONTASIN Charpeng THA 26p
- 3 AP SOM Net Jupha MAS 22p



女子エリート 仏七

- 1 LUO Xiaoling CHN 11p
 - 2 HSIAO Mei Yu TPE 17p
 - 3 LEE Minhye KOR 18p
 - 4 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大学 24p
- FL: 5, PR: 6, EL: 5, IP: 3, SH: 2, TT: 3

女子エリート チームスプリント

- 1 中国 33.423
- 2 韓国 34.511
- 3 日本 前田・石井 34.937



女子エリート 4km チームハーフマラソン

- 1 中国 4:28.347
- 2 韓国 追抜負
- 3 ホンコンチャイ 4:36.128
- 5 日本 塚越・加瀬・小島・中村 4:41.641

WJ スクラッチの鈴木 (先頭)



<トラックジュニア>

[5/22] (大会第1日)

●女子2km個人パーシュート

予選に鈴木が出場。日本記録とともにアジア記録もマークし、1位で通過した。



WJ IP の鈴木

●男子3km個人パーシュート
予選には中村が出場。鈴木とともに自己ベストを更新し、4位で3-4位決定戦に回った。



中村

●男子チームスプリント



MJ チームスプリント

男子チームスプリント(1走・松本、2走・野上、3走・布居) 予選のタイムは48秒924で、4位の地元カザフスタンに0秒499及ばず予選敗退となった。

●女子500mタイムトライアル

女子500mタイムトライアルの鈴木は7位。タイムトライアルではアジアの壁の高さを痛感させられた。

●男子1kmタイムトライアル



野上

1kmタイムトライアルには、ジュニア日本記録保持者の野上が出場。1分05秒337で3位、エリートを含めて日本勢初の表彰台に立った。

●女子スクラッチ(7.5km)

女子スクラッチに出場した鈴木は、この日3種目となった。序盤から積極的に飛び出し、逃げを打つなど果敢にレースの主導権を握った。終盤、牽制状態になりそうな時に素早く先行し、逃げ切り勝ち。レース展開及び力強さで日本勢の金メダル第1号となった。

●男子スクラッチ(10km)

男子スクラッチに出場した松本は、序盤集団後方に待機。レースの流れを見ながら何度かアタックをかけたが逃げられない。逆に台北の選手に1ラップを許したものの、最終的に粘って3位に入った。

MJ スクラッチの松本 (先頭)



[5/23] (大会第2日)

●女子2km個人パーシュート

予選1位で決勝に挑んだ鈴木だったが、相手が地元カザフスタンの選手ただけに、相手側への声援に飲み込まれ、予選通りの走りはできなかった。

●男子3km個人パーシュート

3-4位決定戦に回った中村は、メダルを獲ることを目標にレースに挑んだが、前半がオーバーペースとなり、予選のタイムを下回り、4位に終わった。

●男子スプリント予選

野上と布居が出場。野上が11秒085で9位、布居が11秒540で14位。布居は予選敗退、野上は1/8決勝に進出した。

[5/24] (大会第3日)

●男子スプリント

スプリント1/8決勝に挑んだ野上は、予選4位の韓国選手に勝利。1/4決勝ではマレーシアの選手と対戦。1本目は敗れ、2本目を取り返したが、3本目では相手がギアをかけてき、先行したものの最後に差され、5-8位決定戦に回った。5-8位決定戦では終始主導権を握り、他の選手を前に出さず、逃げ切り勝ちを収めた。



野上

[5/25] (大会第4日)

ジュニアの出場種目なし。

[5/26] (大会第5日)

●女子ジュニアケイリン

鈴木は1回戦、先行するも早めの仕掛けに対応しきれず、3位で敗退。敗者復活戦ではスタートからペーサーの後ろを取り、前々での勝負で予選での

反省を生かし、他の選手の動きを見ながら先行し、逃げ切り勝ちした。2回戦も先行逃げ切りで1位通過した。決勝は、韓国2選手に主導権を握られ、メダルには届かなかった。

●男子ケイリン



MJ ケイリンの布居(右から2人目)

野上と布居が出場。1回戦は野上、布居ともに3位で敗者復活戦に。敗者復活戦は3位までが2回戦に進め、後方に置かれないように両選手に指示。布居は先行し、早めの仕掛けに対応してインで粘り、3位で2回戦へ。野上は後方に置かれてしまい、早めに仕掛けるが、前の選手にあおられて4位でゴール。イランの選手が降格となり、繰り上がりで2回戦に進出した。2回戦の布居は、先行したが写真判定で4着。7-12位決定戦へ。野上は、スプリント1、2位選手と同組になる厳しい展開になり、3位で決勝進出を決めた。7-12位決定戦の布居は、他の選手が早めの仕掛けでスピードが上がり、前に行けず3着で9位確定。決勝の野上は、残り2周前から先頭に立ったが、残り半周で後続に飲み込まれて6着となった。

●男子ポイントレース

松本は序盤から積極的にポイントを獲得にいったが、中盤に香港の選手に逃げられ、追いかけたが届かず、ラップを許した。この時点でポイントは2



MJ ポイントの松本(先頭)

位だったが、後半に香港と韓国の選手が逃げを打ち、韓国の選手にラップされるとメダルが危くなる展開となる。それを避けるため足を使ってしまい、地元カザフスタンの選手に逆転を許して3位となった。

【総評】

大会前の合宿ではチームスプリントに期待を持っていたが、大会では伸び悩み結果は出なかった。一方、女子で唯一の出場となった鈴木は、初の海外遠征でも物おしせず、スクラッチで金メダル、2km個人パーシュートで銀メダルと期待を上回る結果を残してくれた。

大会前に選手たちには、「ここまできたら今持っている力を最大限に出さるように」とアドバイスした。女子の鈴木は、十分に力を出し切ってくれた。男子は1kmタイムトライアルで野上、スクラッチとポイントで松本が3位と粘ってくれたが、優勝者は出なかった。出場した全選手は、アドバイス通りに持てる力を出し切ってくれたと思う。

大会全般では、韓国、マレーシア、香港などといったチームが力をつけており、年々各国とも確実にレベルアップしてきている。アジア選手権という大会そのもののレベルも高くなっている。日本はこれまで目標とされる立場だったが、立場が逆転してきているところもある。指導者・選手も国内ばかりではなく、アジア、世界へと目を向けていかなくてはならないことを痛感させられた。(山本 宏恒)

【競技結果】

第34回アジア自転車競技選手権大会 (5/22-26 カザフスタン・アスタナ)

男子ジュニア スプリント

- 1 MOHD ZONIS Muhammad Firdaus MAS
- 2 JUNG Jeahee KOR
- 3 KANG Shih Feng TPE
- 5 野上 竜太 岡山 鹿屋体育大学
- 14 布居 翼 和歌山 和歌山北高校

男子ジュニア 1km タイムトライアル

- 1 MOHD ZONIS Muhammad Firdaus MAS 1:03.962
- 2 JUNG Jeahee KOR 1:04.266
- 3 野上 竜太 岡山 鹿屋体育大 1:05.337



男子ジュニア ケイリン

- 1 MOHD ZONIS Muhammad Firdaus MAS
- 2 MOHD ZONIS Muhammad Fadhil MAS
- 3 JUNG Jeahee KOR

- 6 野上 竜太 岡山 鹿屋体育大学
- 9 布居 翼 和歌山 和歌山北高校

男子ジュニア 3km 個人パーシュート

- 1 VASSILENKOV Roman KAZ 3:28.603
- 2 MIN Kyeongho KOR 3:32.376
- 3 CHEN Chien Chou TPE 3:29.633
- 4 中村 滝一 福島 平工業高校 3:36.726

男子ジュニア スクラッチ (10km)

- 1 HSU Hsuan Ping TPE
- 2 GANUKHANLOU Mohammad IRI
- 3 松本 憲斗 熊本 ルーテル学院高校



男子ジュニア ポイントレース (15km)

- 1 LEUNG Ka Yu HKG 38p
- 2 VASSILENKOV Roman KAZ 12p
- 3 松本 憲斗 熊本 ルーテル学院高校 10p



男子ジュニア チームスプリント

- 1 韓国 46.414
- 2 マレーシア 47.177
- 3 チャイニーズタイペイ 47.245
- 5 日本 野上・布居・松本 48.924

女子ジュニア 500m タイムトライアル

- 1 CHOI Seulgi KOR 36.223
- 2 CHANG Yao TPE 37.286
- 3 XIA Lanlan CHN 37.344
- 7 鈴木 奈央 静岡 星陵高校 38.285

女子ジュニア 2km 個人パーシュート

- 1 YURAITIS Yekaterina KAZ 2:30.770
- 2 鈴木 奈央 静岡 星陵高校 2:34.305
- 3 BASTIDEHKHARGHANI Prastoo IRI 2:37.956



女子ジュニア ケイリン

- 1 JANG Yeonhee KOR
- 2 CHOI Seulgi KOR
- 3 MOHD ADNAN Farina Shah Wati MAS
- 4 鈴木 奈央 静岡 星陵高校

女子ジュニア スクラッチ (7.5km)

- 1 鈴木 奈央 静岡 星陵高校
- 2 KIM Bobae KOR
- 3 RYABOVA Svetlana KAZ



ME 先頭のカザフ3人+宮澤



<男子エリート・U23ロード>

●男子 U23 個人タイムトライアル

ロードレースと共通コースで、難度の低い30kmフラットコースでの開催であったが、当日は向い風区間では、時速30km/hを割り込むほどの強風が吹いた。石橋学はスタートから強い加速をしてペースを作ろうとしたが、強風でペース作りに苦戦した。結果はトップから3分16秒遅れの7位。本人は結果を順当と自己評価したが、石橋の体力からすると、十分力が発揮できていない。次の機会までに課題を克服し、本来の実力を発揮してほしい。



●男子 エリート 個人タイムトライアル

45kmのエリートクラスには、トラックと兼務の窪木一茂が参加。雨と風、低温の最悪のコンディションの中、コー



ス取りやフォームなどある程度完成している部分はあるが、巡航速度は今一つ上がらない。ペース作りがうまく行かなかったとの本人談。しっかりとポジションセッティングが出来ていなかった事もあり、トップから4分40秒遅れの9位という成績に留まった。

●男子 U23 ロードレース

フラットながら風が吹きさらしのコースでは、後追いの展開にならぬように作戦を組んでスタートした。先行を試みる少数の逃げグループに対して、メイン集団からは随時追走グループが抜け出す展開が続き、地元カザフスタンチームが、自力と展開力で先行人数を増やしてゆく。日本チームは対応が間に合わず、レース中盤には3人のカザフスタンを含む12人が、複数のグループに分かれ先行する中、岡篤志のみが加わっている苦しい状況。110km地点では岡も脱落し、先頭を外してしまう。メイン集団はアタック合戦が続くが、先頭とのタイム差は開く一方。カザフスタンは集団に待機していた4人目も、見事に飛び出して先頭へアプローチし、勝負を完璧な4名構成にした。日本チームは後続集団で一度仕切り直し、他国と共同でペースを作り、スプリントには黒枝土揮を残し、石橋と内野直也を動員して前を追う事にした。しかし先頭との差は広がる一方で、先頭から脱落してくる選手を吸

収してゆくのが精一杯であった。ゴールは香港が何とか食い下がり4位に入ったものの、カザフスタンの独壇場であった。ゴールに着く頃には各国選手疲労困憊状態で、黒枝も余力を残せず、最後まで体力を残せた石橋が、9位でゴールしたのが最高順位となった。今回は完全に力負けした感が強くあり、体力的な課題を直視したい。

●男子エリート ロードレース

レースを知り、各国のメンバーの実力が把握できているベテラン4名の編成ではあるが、ジュニアそしてU23のレース展開を十分参考にしてスタートした。コース的には西谷泰治向きと考えたが、特定のエースを決めずに先手を取り、カザフスタンの攻撃に備えた。前半から宮澤崇史と盛一大が先頭を外さない走りで、常に先手を取る良い形が続いたが、動きが宮澤に集中していることが心配された。カザフスタン1人と宮澤を含む先頭グループに対し、中盤以降は本格的なカザフスタンの追撃が始まり、後続の日本の3選手や主力国の選手も追走に絡むが、力づくで引き離され、気が付くとカザフスタン3人と宮澤の4人の先頭グループとなる。メイン集団は建て直し先頭を追うが、差は縮まらない。最終周にはカザフスタン3名が、宮澤に対して攻撃を加えて1~3位を独占。単独で食らい付いていた宮澤が、4位でのゴールとなった。後続では西谷もラストスパートに備えたが、消耗戦に余力が残せず8位に甘んじ、土井雪広は23位、盛は27位となった。エリートもジュニア、U23同様、完全に力負けした。これだけ情報があり展開が読める中で、プロツアーに所属するカザフスタン代表の4名に対し完敗であった。しかしその中でも宮澤の走りは、この状況下で最大の努力であったと評価する。(浅田 顕)



ME メイン集団

<女子エリート ロード>

●女子エリート 個人タイムトライアル

日本からは昨年全日本チャンピオンの與那嶺恵理が参加、風が吹き付ける中でラストから2番目にスタート。昨年ジュニア女子でTT、ロード、トラックで金メダルを独占した香港のPANGを、1周終了直後にあっさりと抜く。その時点ではトップタイムで、ロンドン五輪ロード13位の韓国NAに、3秒のタイム差をつける。ラスト10kmでもタイム差変わらず、非常に接戦となる。ラスト4kmの向かい風区間で3秒ほど逆転され、その後の緩い登りの横風区間でタイム差をつけられて、17秒差の2位で銀メダルを獲得した。

與那嶺



●女子エリート ロードレース

日本からは與那嶺、金子広美、萩原麻由子の3名が参加した。上野みなみも参加予定であったが、体調不良で遠征を見合わせる事となった。

風は収まりつつあったが、それでも厳しいレースになると考え、レース前半に他チームの攻撃がある場合は、チームでまとまって動くこと、特に横風区間での動きには注意を促した。通常の流れであれば、風の影響で弱い選手は淘汰されていくので、3名で戦う日本チームは中盤から風を使って、まとまって攻撃を仕掛けることにした。

優勝候補に、アジア選を集団スプリントで3連覇しているHSIAO (TPE)がいる。彼女にスプリントで勝つ可能性のある選手は他国にもほとんどおらず、この風を利用して集団スプリントを避けて、レースを動かしてくるチームが増えた場合は、スプリンターのいない日本にとってはありがたい。日本チームは他国と比べて平坦での独走力があり、厳しい展開になってくれたほうが勝つチャンスは大きくなる。

レースは風向きが変わるポイントで前に、ということで、萩原が先頭付近で動く。ただ他チームが攻撃を仕掛けてくることはなく、単発での動きしか起こらない。逃げが決まりかけると、すぐに踏むのをやめてしまう。中盤ま

で3選手が数名での逃げに入り決まるかと思われた場合でも、複数名の逃げになるとすぐに他の選手は踏むのをやめてしまう。集団から単独で遅れた選手たちが、しばらくして戻ってくるほどの遅いペースだ。萩原に6周目の若干の横風の向かい風区間で攻撃して、追い風に代わるころでも3名で踏み続けるように伝える。その直後に同ポイントで、単発であるがモンゴルが連続して攻撃を仕掛けて、集団が長く延び中切れを起こし始める。その後も単発でのアタックが続き、日本の3選手がまとまって攻撃をかける。集団は引き伸ばされた状態になり、ななめ後ろからの追い風区間でも日本は牽き続けるが、集団は小さな中切れしか起こらず、その攻撃に加勢して集団を分断させようというチームは出てこない。他国にもスプリンターがいるが、HSIAOのような爆発的なスプリントが出来る選手ではなく、スプリントになれば勝つ可能性が低くなる中でも、集団スプリントでの勝負にのみかけて、チームで動きをみせることはなかった。日本の動き後は、さらなる攻撃を警戒してか、脚があっても集団スプリントのためにしか絶対に動かないという、各国の強い意思を感じた。そのまま最終周はさらにペースを落として、タイが緩くコントロールする状況で進むこととなった。向かい風から横風区間を使っての、萩原のアタックで集団も伸びるが、決定的な逃げにはならない。

最後の折り返しを回ったラスト2kmから、斜め横からの風の中を與那嶺が、TT 3位のモンゴルと抜け出す。集団はスプリンターが複数いるものの、秩序がない中でこの2名を追って進む。與那嶺は粘るが、モンゴルが牽けなくなり、スピードが鈍ったラスト200mで2名は集団に飲み込まれ、ゴールスプリント勝負でHSIAO Mei Yuが、アジア選手権4連覇を飾った。

ロードレースでは順位を競うものでありタイムは関係ないが、より風の強かったジュニア男子と、同周回数でのタイム比較で35分という差が生まれた。周回数が5周と少ないジュニア女子のレースも、日本チームが動くまでは遅いペースで進んだが、それよりもさらに平均時速は遅く33.19km/hであった。他の国にも逃げる脚がある選手も多くいるが、HSIAOとそのアシストに脚を使わせるレースにしようとは

WE 萩原(右)と金子



しない。他のカテゴリーでは風の影響を受けて、非常に攻撃的な「動」のレースとなったが、エリート女子のみは非常に守備的な「静」のレースとなった。(柿木 孝之)

【競技結果】

第34回アジア自転車競技選手権大会 (5/28-6/1 ガザフタ・カガツディ)

男子E1-個人タイムトライアル (45km)

1	GRUZDEV Dmitriy KAZ	1:01:54.33
2	EUGEN Wacker KGZ	1:03:13.53
3	CHOE Hyeongmin KOR	1:03:29.04
9	窪木 一茂 和歌山 県庁/右京	1:06:33.03

男子U23 個人タイムトライアル (30km)

1	OKISHEV Viktor KAZ	42:20.98
2	PARK Sanghoon KOR	42:54.54
3	LEUNG Chun Wing HKG	43:43.10
7	石橋 学 青森 鹿屋体育大	45:37.21

女子E1-個人タイムトライアル (30km)

1	NA Ahreum KOR	43:56.84
2	與那嶺恵理 茨城 FORZA	44:14.27
3	TUVSHINJARGAL Enkhjargal MGL	45:03.02



男子E1-ロードレース (204.1km)

1	TLEUBAYEV Ruslan KAZ	5:09:19
2	IGLINSKIY Maxim KAZ	5:09:19
3	GRUZDEV Dmitriy KAZ	5:09:31
4	宮澤 崇史 JPCA VINI FANTINI	5:09:39
8	西谷 泰治 愛知 愛三工業	5:12:00
23	土井 雪広 山形 チーム右京	5:23:22
27	盛 一大 愛知 愛三工業	5:23:25

男子U23 ロードレース (172.7km)

1	GALEYEV Vadim KAZ	4:12:19
2	ZEMLYAKOV Oleg KAZ	4:12:21
3	AYAZBAYEV Maxat KAZ	4:16:41
9	石橋 学 青森 鹿体/FANTINI	4:19:13
30	内野 直也 埼玉 EQA U23	4:22:02
32	黒枝 士揮 大分 VINI FANTINI	4:22:50
	岡 篤志 茨城 EQA U23	DNF

女子E1-ロードレース (125.6km)

1	HSIAO Mei Yu TPE	3:47:05
2	DIAO Xiao Juan HKG	3:47:05
3	GU Sungeun KOR	3:47:05
11	萩原麻由子 群馬 Wiggle Honda	3:47:05
17	金子 広美 三重 伊-メアランド	3:47:05
25	與那嶺恵理 茨城 FORZA	3:47:05

<ジュニアロード>

●男子ジュニア 個人タイムトライアル



2014年のアジア選手権ジュニアタイムトライアル、ロードレースが例年より遅い5月28日からカザフスタンのカラカンダで行なわれた。コースは全カテゴリー同じ1周15.7km(TTは15km)のほぼ平坦の周回コースで、Uターン箇所が3箇所ある。風が強く、風向きも頻繁に変わるため、コースプロフィール以上に厳しいレースとなる。

昨年のアジア選手権TT2位の山本大喜が、春先の合宿では良い走りが見られず、5月の最終選考合宿には体調不良で参加することが出来ず、メンバーに選ばれなかった。これにより合宿において、TTの走りが一番安定していた草場啓吾が走るようになった。

ジュニア男子TTは、2週の30kmで争われた。優勝候補はカザフスタンのZHUMAKANで、草場のスタート1分後にスタートする。1周終了時点で1分後にスタートしたZHUMAKANに抜かれる。この段階では暫定でこの選手が1位であり、草場もメダルが狙える位置で走っている。1分前にスタートしたイランの選手を抜いて、自分のペースを維持し続ける。ゴールではイランの選手と競る形で、力を出し切ることが出来た。結果は3位で銅メダルを獲得した。4位のモンゴルの選手とは0.06秒差の僅差であった。後半に好走した韓国のKIMが、ZHUMAKANを破り優勝した。

●女子ジュニア 個人タイムトライアル

ジュニア女子TTは風の強い状況の中、15kmを1周で争われた。日本からは5月の選考合宿で、非常に高い能力をみせた梶原悠未が参加した。

最初の長い向かい風区間を、43～45km/hほどの非常に速いスピードで進む。スタート直後から無線のイヤ

ホンが耳から浮いてしまっていたようで、コース取りやペースの指示が届かない。3kmもいかないうちに、1分前にスタートしたウズベキスタンの選手が一気に近づいてくる。完全なオーバーペースで、ライン取りも最短コースを取れず、広い道を右に行ったり左に行ったりとしてしまう。7kmほどで前の選手を抜くが、差が広がらず、向かい風区間で逆に抜き返されてしまう。その後はペースを落としながらもなんとか離されないように粘り続けゴール。トップとは差をつけられたが2位で銀メダルを獲得した。



ペース配分、コース取り、バイクを扱う技術が向上すれば、TTにおいて世界で戦える選手になれる可能性のある走りをみせた。

●男子ジュニア ロードレース

男子ジュニアロードはTTとほぼ同じコースを8周、125.6kmで争われた。日本からは孫崎大樹、草場啓吾、松本祐典、石上優大の4名が参加した。今大会では自国開催のカザフスタンがネイションズカット、プの走りからも最大のライバルとなる。

レース前のミーティングでは、スタート直後からカザフスタンの攻撃が必ずあること、カザフスタンの複数名の攻撃には複数名で対応すること、風が強いコースであり特に

横風区間ではチームでまとまって動くこと、集団スプリントの際には、スプリント力に長ける孫崎のために他の選手は動くことを確認する。

気温が7℃ほどであるが、風があるので体感温度はさらに低く、選手も震える寒さの中でスタートする。スタートと同時に、カザフスタンが予想通りチームでまとまって、複数名で攻撃をかけてくる。1周目にはカザフスタン2名の攻撃が決まり、それには日本とモンゴルが中心となり追撃をかけて、2周目には吸収する。4周目にはカザフスタン1名、モンゴル3名と石上を含む7名の選手が先行する。モンゴルが3名入っているが、ここはカザフスタンに追わせればよく、ただカザフスタンの選手の、メイン集団から先頭グループへのジャンプアップに気をつけなければよい。この逃げは吸収されて、集団は少し落ち着く。この段階でチームとして動いているのは、カザフスタンと日本とモンゴルだけであり、チームに強力な選手がいてもチームとして動けない国は、この段階ですでに消耗していることが窺える。

カザフスタンが前半からの攻撃で少し疲れが見えてきたかと思いきや、5周目の向かい風から横風区間変わったところで、複数名での攻撃をかけてくる。この段階で応戦できるチームは日本しかいない。カザフスタン2名の攻撃に複数名で対応できず、日本選手が追った後ろからさらにカウンターをかけられ、4名のカザフスタンだけの逃げが出来てしまう。日本チーム4名がまとまるのにも時間がかかり、アタックから5kmの間に20秒差をつけられてしまう。モンゴル、チャ



男子ジュニアのメイン集団

イニースタイプイ、イランが2名ずつ集団に揃えているので、これらのチームと共同で追わねば、厳しい状況の中、前半に強さをみせたモンゴルに協力を求めるが、前半の動きで消耗しており追う脚が残っていない。タイム差は周回毎に大きくなる。7周目の段階ですでに2分以上の差をつけられる。メイン集団は日本だけが牽いており、他のチームの協力は得られないので石上、松本、草場だけで抜け出す形をとるが、他のチームは本当に脚が残っていないようでは対応できない。カザフスタンの4名を追って、日本の3選手が追いかける形となる。

このままタイム差は縮まることなく、カザフスタンが1位から4位までを独占する形でゴールする。そこから3分遅れて松本、草場、石上が5位から7位でゴールし、集団スプリントでは孫崎が2番手でゴールした。4位までが獲得することが出来るネーションズポイントを、カザフスタンに全て持っていかれてしまった。

カザフスタンが前半から攻撃を続けて、アジアの国々に力の差を見せつけるような走りをみせた。昨年のアジア選手権では、日本のほかにウズベキスタン、マレーシア、ベトナムがカザフスタンに対抗する意思と力をレース後半までは見せていたが、今年は強い風の影響もあり、チームでまとまって戦えない国は自国のエースが最初の50kmまでに、カザフスタンの攻撃で大きく消耗する状況となった。今回のアジア選手権ではほぼカザフスタン対日本との戦いとなり、さらに大きな力差があるのを認めざるを得ないレースとなった。力だけではなく、チームとしてのまとまりも彼らが抜きこんでいた。

カザフスタンのジュニア代表チームは、ここ数年の間にロードチームの予算が増えたことでサポート体制が変わり、世界レベルで勝負できる国になりつつある。ジュニアの段階でプロ育成チームと同じ体制を確立するナショナルチームと戦うのは、日本のジュニア選手の置かれている現在の環境を考えると厳しい面もあるが、彼らと対等な勝負が出来なければ、ネーションズカップや世界選手権で結果を残すのは難しい。今回の大敗を受けてレース後の選手からは、今度戦うときには絶対に彼らには負けたくないという、強い意志が感じられた。

●女子ジュニア ロードレース

ジュニア女子ロードには坂口聖香、中井彩子、伊藤真生、梶原悠未の4名が参加した。レースは5周78.5kmで争われた。坂口は昨年のアジア選手権では、単騎で戦い2位に入っている。今年は日本チームとして、力のある坂口と梶原が結果を残す役割を担い、伊藤、中井がアシストとして走り、日本チームでの金メダル獲得を狙った。

午前中より風は収まったが、それでも強い風が時折吹く。弱いチーム、選手は風の影響で、何もしなくても集団には残れないので、中盤までは日本からは積極的な攻撃をかけず、他チームの横風区間での攻撃にはチームでまとまって対応すること、風の向きを常に意識して集団内で位置取りすることを確認する。日本の攻撃はラスト30~20kmで、中井・伊藤が集団に揺さぶリアタックをかけたから、追い風区間手前からの梶原の攻撃で、集団を分断することにした。追撃には必ず坂口が入るように注意し、梶原はその後もアタックを繰り返し、逃げ切りを狙う。梶原の逃げ切りが無理でも、坂口はそれにより勝つチャンスが大きくなる。そして独走力はあるがスプリント力のない梶原にはゴールスプリントを期待できないので、坂口の先導をしないで自分のタイミングで攻撃をかけるようにした。TTで圧勝した、カザフスタンのYURAITISの攻撃には十分注意しないといけないこと等、をミーティングで事前に確認する。

レースはスタートから単発アタックがかかるが、チームでの動きではなく、カザフスタンが先頭を固める形で、非常にゆっくりとしたペースでレースが

流れて行く。横風区間でカザフスタンがチームで動くが、反対車線まで風下を使い集団が繋がり、ダメージを与える走りにはならない。

4周目の向かい風区間で、坂口が2人での攻撃が有効と判断して、梶原と一緒に攻撃をすることにする。その前に伊藤が攻撃をしかけて集団を振ってにおいて、そのカウンターで梶原が攻撃して、それに坂口がついていく形での日本の攻撃が決まる。Uターン後に風向きが追い風となるので、ここで集団との差が広がる。集団からはカザフスタン2名が抜け出し追撃する。追い風から横風が変わった区間で梶原から坂口が遅れるが、追撃のカザフスタン2名と坂口は合流する。梶原の攻撃が強力で、それを追うのにカザフスタンの2名は脚を使う。向かい風区間で追走の3名が梶原に合流するが、追走に脚を使ったカザフスタンの選手1名が力尽きて遅れていく。

向かい風区間と横風区間で集団の動きは完全に止まり、この段階で3名の逃げ切りがほぼ確定する。梶原には予定通り攻撃するように伝える。その後も梶原、坂口に交互の攻撃を強く促すが動きを見せず、逆に牽制のような走りとなってしまい、チームとして有利な状況を全くいかせない。カザフスタンにとっては、非常にありがたい状況を作ってしまう。結局3名でのスプリント勝負となり、カザフスタンが先着して梶原が2位、坂口が3位になった。

坂口は指示が聞こえていながらも、3名でのスプリント勝負ということのみを考えてしまい、日本チームが勝つ可能性が低くなる選択をしてしまった。



女子ジュニアのスタート

例えば坂口がスプリントに絶対の自信があったとしても、相手のスプリント能力が計れない中で、逃げの力を残している梶原に攻撃をさせずにゴールまでいってしまうのは、良い選択ではなかった。梶原の攻撃でカザフスタンの選手は脚を使わされることになり、坂口のスプリントでの勝利の可能性はより高くなる。また交互にけることで、1名での逃げ切り、あるいはカザフスタンの選手が力尽きたところで合流すれば2名での逃げになり、日本チームで1、2位を獲得する可能性が非常に高かった。結局梶原は、攻撃する意思と脚を残したままレースを終えた。勝つための展開を日本チームで作りながら、一番肝心なところでの適切な判断が出来なかったことは、今後の大きな課題となった。

伊藤、中井は逃げが決まるまで、チームで求められた走りをしっかりこなせ

なかったとレース後は悔しがっていたが、可能な限り集団の動きに対応して、梶原、坂口が逃げる前のお膳立てと、集団のコントロールを果たした。ゴールでは中井が、集団から抜け出すほどのスプリント力を見せて集団の頭を獲り4位、梶原と坂口の逃げのきっかけの動きを作った伊藤も、集団の3番手の6位となった。

日本のジュニアの女子レースでは展開が少なく、戦い方を学べる機会は多くはない。世界で戦うためには個人の能力をあげることはもちろん必須であるが、チームで戦うための走り方も学んでいかねばならない。ただ力勝負するだけではなく、頭をしっかりと使う習慣も身につけてもらいたい。

(柿木 孝之)

【競技結果】

第21回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会
(5/28-6/1 カザフスタン・カカタンディ)



男子ジュニア個人タイムトライアル (30km)

- 1 KIM Jihun KOR 41:5411
- 2 ZHUMAKAN Alisher KAZ 42:1083
- 3 草場 啓吾 京都 北桑田高校 43:2986



女子ジュニア個人タイムトライアル (15km)

- 1 YURAITIS Yekaterina KAZ 22:1934
- 2 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 23:2642
- 3 KNEBELEVA Ekaterina UZB 24:1878



男子ジュニアロードレース (125.6km)

- 1 SHTEIN Grigoriy KAZ 3:12:06
- 2 GIDICH Yevgeniy KAZ 3:12:06
- 3 VOLOSHIN Alexey KAZ 3:12:06
- 5 松本 祐典 京都 明治大学 3:15:11
- 6 草場 啓吾 京都 北桑田高校 3:15:11
- 7 石上 優大 神奈川 横浜高校 3:15:11
- 9 孫崎 大樹 京都 北桑田高校 3:19:09

女子ジュニアロードレース (78.5km)

- 1 GENELEVA Nadezhda KAZ 2:17:38
- 2 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 2:17:38
- 3 坂口 聖香 兵庫 日体大/パナソニック 2:17:38



- 4 中井 彩子 宮崎 日向高校 2:20:06
- 6 伊藤 真生 宮城 東北高校 2:20:06

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld

JAL JAPAN AIRLINES

男子エリート、宮澤がいる先頭集団



女子エリート、アタックをかける萩原



男子ジュニア、カザフ4名を追う日本チーム



男子U23、先頭集団の岡



女子ジュニア、先頭を行く萩原・坂口





日本新記録 Japan New Record

■スタンディングスタート

・2km

女子ジュニア 2'32"007 鈴木 奈央 (静岡・星陵高校) 2014/05/22 カザフスタン・アスタナ

・4km団体

女子エリート 4'41"641 日本 (塚越さくら・加瀬加奈子・小島蓉子・中村妃智) 2014/05/23 カザフスタン・アスタナ

男子エリート 4'10"650 日本 (窪木一茂・倉林巧和・近谷 涼・橋本英也) 2014/05/23 カザフスタン・アスタナ

男子エリート 4'10"278 日本 (窪木一茂・倉林巧和・近谷 涼・原田裕成) 2014/05/24 カザフスタン・アスタナ

アジア選手権 (カザフスタン・アスタナ)

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.207 2014年6・7月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/坂井田 米治

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

